

小郡市 人権センター 通信

No.
37

Contents 「主な内容」

- 人権センター公開講座のお知らせ …… P 1
- 障がいのある人もない人も共に学び、働き、共に生きることができる社会をめざして …… P 2



人権センター公開講座

「寛容さと不寛容 どちらで生きていきたいですか」



講師 **神戸 金史さん**

（RKB毎日放送報道局 担当局長）

プロフィール

- 1991年に毎日新聞社に入社。2004年、自閉症児の父親の立場からコラム「記者の目」や「うちの子 自閉症児とその家族」を連載。
- 2005年にRKBに転職。2016年の津久井やまゆり園事件（相模原障がい者施設殺傷事件）の被告と接見を重ね、ドキュメンタリーを制作する。

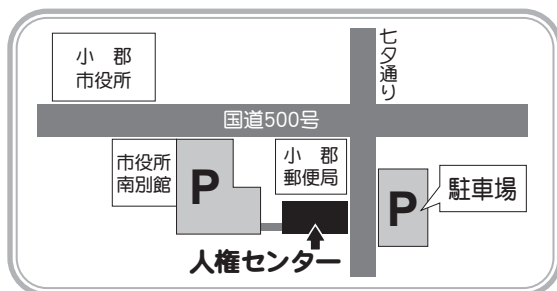
私は記者として接見を続けてきましたが、障がいを持つ子の父でもあります。植松死刑囚は、「息子さんは、幼いうちに安楽死させるべきでした」と言い放ちました。接見を重ねる中で、平凡な青年を凶行に走らせたのは、「役に立たない人間に、生きる資格はない」という、乱暴で単純な“不寛容”の意識なのだ、と感じました。「自己責任」「生産性」「優生思想」……。社会は不寛容な言葉に溢れています。なぜそんな社会になったのか、誰もが安心して生きることができる社会を実現するには何が必要なのか、一緒に考えてみませんか。

日時 **10月29日(土) 13:30~15:00 (開場13:00~)**

会場 **小郡市人権教育啓発センター** ※定員を超えた場合は、サテライト会場をご案内します。

申込順 (定員80名)

無料、手話通訳あり、託児あり (要申込)



《申込方法》電話・ファックス・専用フォームで、①氏名②住所③電話番号④託児の有無を明記し、申し込み。

【問い合わせ・申込先】
小郡市人権教育啓発センター
TEL/FAX 0942-80-1080



障がいのある人もない人も共に学び、働き、 共に生きることができる社会をめざして



10月29日の公開講座の講師・神戸金史さんの長男・金佑^{かね すぐけ}さんは、自閉症という障がいがあります。センター通信36号(前号)では、神戸さん家族の子育てのこと、小郡市内で障がいのある子どもと家族の支援活動を続けている野田利郎さんのお話を紹介しました。

今号では、小郡市内で自閉症の息子さん・あきちゃん(現在27歳)を育ててきたYさん(お母さん)にお話を伺いました。



あきちゃんが小さい頃のことを聞かせてください。

2歳頃から、規則正しい生活を身につけさせようと、毎朝散歩するようにしていました。その散歩のとき、隣のおばちゃんが必ず一緒に来てくれて、「あきちゃんが走り出したら追いかけてね。妹はわたしが見てるから。」と言ってくれて、とても助かりました。

小中学校は地元の学校に通いました。送迎時などに、先生やお友だちのお母さんたちとたくさん話をすることがとても心強かったし、勉強になりました。小学校の卒業式のときは、小学校で6年間一緒に過ごしたお友だちが何日も前から練習して、一緒に登校してくれました。わたしたち親子は、いろんな人たちに支えられて、ここまでやってこられたのだと思っています。

子育てをする中で大切にされてきたことを教えてください。

できないと決めつけずに、できることを増やしていこうと思っていました。たとえば、薬は粉薬しか飲めないと思っていたのですが、お医者さんに相談して錠剤を処方してもらいました。何回か練習したら、「ごちそうさま」って言ってゴクンと飲み込んだんですよ。そんなふうに、挑戦してみたら「なーんだ。できるやん!」ということが意外とありました。小さなできることを積み重ねていくことが大事だと思います。

また、中学を卒業してからは、寄宿舍のある特別支援学校高等部に進むことにしました。家と違う環境の中で生活することに慣れておくほうがいいと考えたからです。環境の変化に敏感なところがあるのですが、部屋は3年間同じ部屋にするなど先生方が柔軟に対応して下さったので、安心して生活することができました。

小学校の先生で、今でも交流のあるM先生にもお話を伺いました。

お母さんは、あきちゃんの将来やきょうだいのことを考えて、本当に一生懸命に子育てをされていました。彼の成長を小さなことでも見逃さないようにされていました。まわりの方たちが協力的だったのは、お母さんがいろんな方とのつながりを大事にされていたからだと思います。

あきちゃんは、言葉ではスムーズに伝えられないけれど、相手の思いに気づいて寄り添える優しい子でした。印象に残っているのは、私が悲しい思いをしているときに、何も言っていないのに、彼が私の頭をポンポンとなでてくれたことです。彼と過ごした日々は、私や周りの友だちに、たくさんの気づきと学びを与えてくれて、かけがえのないものになったと思います。

現在、あきちゃんはグループホームに入り、昼間は久留米の就労施設に通っています。

そして、お母さんYさんは、あきちゃんがまわりの子と共に育っていくのを見守った経験を生かして、学校や学童の支援員として働いています。